

2020年12月24日 東洋大学ボランティアカフェ ONLINE

「好きなことでボランティア！～旅+ボランティア=?～」第3回を開催しました

ボランティア支援室では、気楽な雰囲気の中でボランティア・社会貢献活動に関する話題に触れることのできる機会として「東洋大学ボランティアカフェ（以下、ボラカフェ）」を開催。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、オンライン開催を行っています。

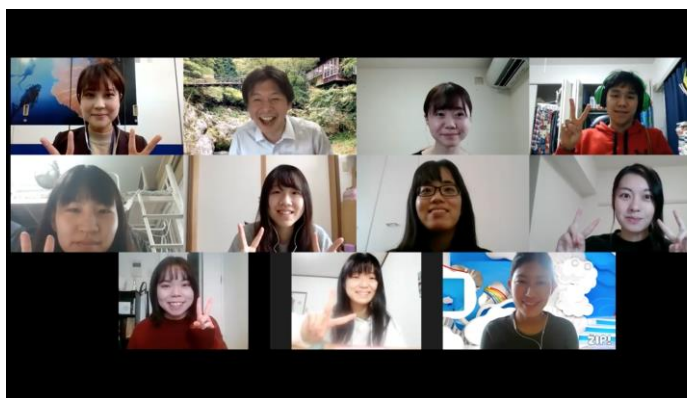
12月度は、「好きなことでボランティア活動に関わる」という切り口で、「旅」を取り上げ、3回シリーズを企画しました。既報の第1回・第2回に引き続き、第3回を以下の通り開催しました。

- ・日時：2020年12月24日（木）9:30～12:00
- ・会場：オンライン会場
- ・リソースパーソン：赤羽 真萌さん  
（東洋大学ライフデザイン学部生活学科2年、IVUSA 白山クラブ）
- ・スペシャルゲスト；沼能 奈津子さん（旅行代理店 エコ・スタディツアー企画担当）
- ・モデレーター（進行役）：日比野 勲（東洋大学ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター）
- ・参加者：11名

12/14に行われた第3回目のボラカフェは、「旅」のテーマのごとく、出身・現住、全国各地からオンライン上に集まりました。今回お話をしてくださったのは、旅行代理店で働いている沼能さんです。

沼能さんは「多様化する旅のかたち」をテーマに自身が担当しているスタディーツアーと絡めてお話をしてくださいました。スタディーツアーとは一般的に知られているレジャー旅行に、変化する社会の中で大切にされてきた「テーマ性」を加えたイメージであり、沼能さんの旅行代理店では、『私と社会の「豊かな未来」につながる旅』を定義として、学びや持続可能性のある旅を提供しています。具体的には、地域×交流×まちづくりで福島県の資料館や東日本大震災を考えるプログラムである。旅行に行くことが学びではなく、行く前そして言った後にも自分ごととしてその地域を考えられるツアーだと実感しました。話の後半ではスタディーツアーに関わってからの学びについて3つのお話してくださいました。1つは「なんでもスタディ！」現地に行った時の少しの心の変化に対してなんで？ どうして？と素直な気づきが学びになると話していたのが印象的でした。2つ目は「魅力発信だけでは無い旅の可能性」旅行の楽しさだけでなく、現状や課題を把握する必要があると話してくださいました。そして3つ目は「お互いの持続性を考える」現地に行く私たちはただ支援するだけではなく、生活に私たちが介入することで自立を妨げてしまうのではないかと考える大切さを感じました。そして最後には、今のかたちということで、オンラインで行われている旅についての紹介で話を締めてくださいました。

今回のボラカフェでは旅は知るきっかけになると学ぶことができました。行きたい！楽しい！という旅も、なんで？ どうして？と疑問を持つことで知らなかったこと、見えていなかったことを知るきっかけになります。『旅+ボランティア=?』の答えは、1つの正解はなく、感じ方・学んだことによって様々な答えがあるのではないのでしょうか？身近である旅には、多くの学びが転がっているように感じました。



変化・多様化し続けるスタディーツアー

◎わたしたちの定義  
わたしと社会の「豊かな未来」につながる旅

◎特徴

- ・テーマがある
- ・“学び”がある
- ・旅が終わったあとも自分ごととして考える
- ・持続可能性がある (SDGs)

※あくまでも一例（団体・個人によっても異なる）

(リソースパーソン 赤羽 真萌さん)

(リソースパーソン 赤羽 真萌さん)